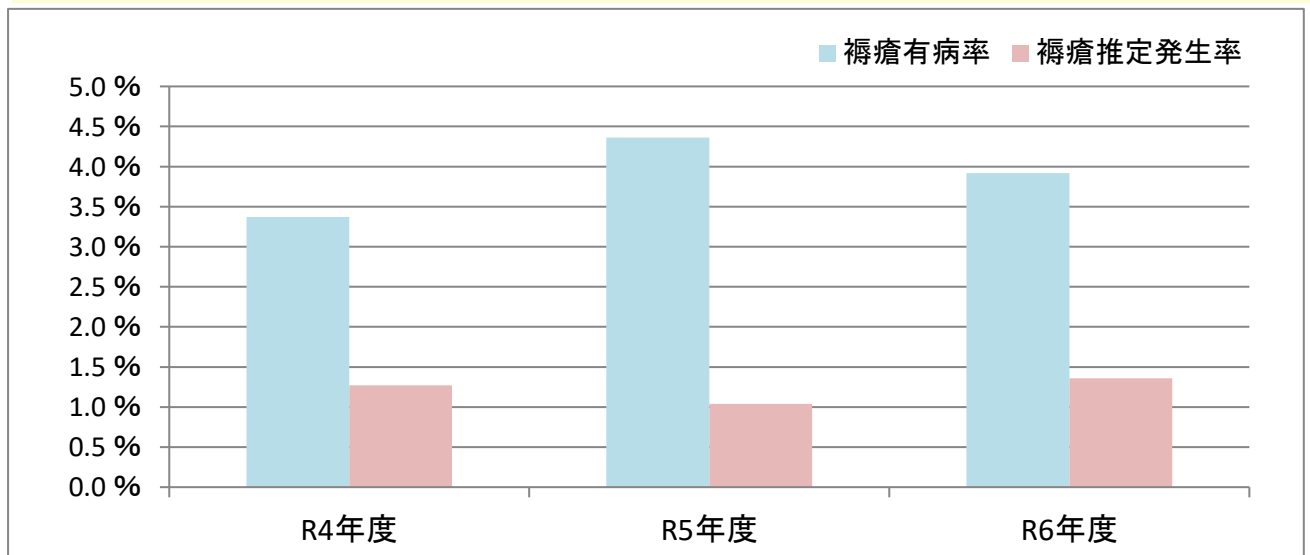


褥瘡推定発生率

	R4年度	R5年度	R6年度
褥瘡有病率	3.37 %	4.36 %	3.92 %
褥瘡推定発生率	1.27 %	1.04 %	1.36 %

褥瘡推定発生率が高い結果となりました。前期1.63%、後期1.10%まで下げることができました。R5年度新規褥瘡患者数は41人、R6年度は39人と総数は少なく経過。R5年度の褥瘡新規発症部位（足関連）が全体の46%を占めていたため、R6年度は注意喚起のため下肢除圧のポスターを作成。2か月のポスター掲示期間に新規発症は無く、足関連の褥瘡の新規発症は32%まで減少することができました。



褥瘡有病率 (%)

(調査日に褥瘡を保有する患者数) / 調査日の入院患者数

褥瘡推定発生率 (%)

(調査日に褥瘡を保有する患者数 -

入院時既に褥瘡保有が記録されていた患者数) / 調査日の入院患者数

【褥瘡とはどんな病気か？】

褥瘡とは、寝たきりの状態によって持続的な圧力が加わり、組織の血流が減少・消失し、虚血状態・低酸素状態となり組織の壊死が起きた状態のことをいいます。

体位を変えられない人、痩せによる骨突出のある人、栄養状態の悪い人に発症しやすく、早期の対応が遅れると慢性化しやすくなります。

【当院の対策】

皮膚・排泄ケア認定看護師が専従となり、褥瘡ハイリスク患者ケア加算を算定し、褥瘡対策に取り組んでいます。

褥瘡委員会（医師1名、看護師11名、リハビリ職員2名、栄養士1名）を設置し、その中で週1回のラウンドを通し、既に褥瘡の有する患者のケア方法や今後の対策についてカンファレンスをしています。またポジショニングラウンドやスキンケア予防の活動も行っています。